

『寝たきり』から少しでも歩けるようにする リハビリ用在宅トレーニング器具の開発(商品名:寝たきり補助器)

この健康補助器具は、1台で五役の機能を持っています。(世界で初!)

欧米諸国では、在宅介護補助器具が発達していて、欧米のある国では、政府が無償で在宅介護補助器具を貸与して、『寝たきりゼロ』を実現しています。『寝たきり』は一人もいないそうです。

- ① 足腰を鍛えて少しでも歩けるようにする。 専門家の方々はチームを組んで(ご家族の方でも)、立たせる、歩かせる、という目標に向かって一日のうち数十回、数時間のトレーニングを行うことにより、又、皆で足底や膝に体重をかけさせ、足底に刺激を与えれば関節拘縮も治って、歩けるようになるそうです。
- ② 寝たきりの人でも用便補助の腰掛けを取付けて一人で用便ができる。
(洋式の便器はメーカーにより高さがまちまちで違うけど、高さ調整可能です。注文の際に高さを聞いて調整済みで出荷致します。)
- ③ 蓋をすると、浴室ではシャワーで身体のすみずみまで自分で洗える。
- ④ 前にテーブルを置いて腰掛けて、食事ができ、又少し斜めにリクライニングすれば新聞、テレビが疲れずに見られる。
- ⑤ 水平にして昼寝もできる。夜は自分のベッドで寝てください。



※それぞれセット変更に2~3分程度

- 団塊世代が75歳以上の後期高齢者になる2025年には、日本の高齢化は今後人類史上例がない速度で、急激に進むそうです。入院できる病院や、特養の老人ホームは大幅に不足するそうです。入所待ちがどこも数百人待ち、3~4年待ちで生きているうちに入れるか分からないそうです。
- 低賃金と仕事のきつさで介護する担い手さんが2025年には100万人不足と推定され社会問題されていますが、今回開発したこの補助器具で随分と改善されるかと確信しています。
- 国にお金が無くなれば医療費の自己負担を大幅に引き上げて、『年寄りの切り捨て』とか、『高齢者が死に場所を失う「終末期難民」という言葉がささやかれている』そうです。そのためにも、『手作りで、安価で便利な健康器具で健康長寿を全う』しましょう。
- 政府も受け皿不足で『医療介護一体で施設から在宅へ』の流れを進めています。在宅でこの補助器具を使ってリハビリすれば、特養老人ホームに入らなくて済みます。『高齢者にとって非常に厳しい現実』が待っているようです。
- 現在、国民医療費40兆円を超えて、2025年には医療費と介護の費用は、71兆円と推定されています。国の借金も現在1020兆円とか、このまま推移すると2040年には4000兆円、2060年には8000兆円になると推計されています。『このままでは介護医療費制度は崩壊すると言われて』います。国の財政も破綻の心配はないのでしょうか。